

22) 長崎市聖福寺のお春の碑

Monument of “OHARU” at SYOUFUKUJI in NAGASAKI City.

北九州市 上瀧口武

袖ヶ浦市 長谷川弥

Takeshi Kamikatakuchi, *Kitakyushu City*

Hisashi Hasegawa, *Sodegaura City*

徳川幕府は切支丹の取り締まりを徐々に嚴重にし、貿易港は長崎港のみとした。寛永十二年五月(1635年7月)日本の貿易船、日本人の海外渡航や海外からの帰国を一切禁止し、翌年には、南蛮人、すなわちイスパニヤ人、ポルトガル人系の子孫にいたるまで国外追放にした。さらに取り締まりを嚴重にして、在住オランダ人、イギリス人やその血統を引いた混血児も国外追放処分にした。

このときのいきさつは、天文学者、暦学者であった西川如見が1720年(享保五年)に著した「長崎夜話草」全五巻のうち、第一巻に「蛮人子孫遠流之事」「紅毛人子孫遠流之事付ジャガタラ文」として詳細に書かれている。

混血児であった14歳のお春が後年追放先のジャガタラから、望郷の念忘れがたく、故郷のおたつに宛て近況を記した便りを出した。これが世にいうジャガタラ文である。

和歌四首を含み、三千字に及ぶ実に美文調の手紙であるが原文は現存していない。これとは別に、平戸観光資料館にコルネリヤ及びコショロの手紙が保存されており、これらを手本として西川如見が創作したものではないかとされている。これらジャガタラ文に関して検証を試みた。また長崎市聖福寺境内に「じゃがたらお春の碑」が建てられており、その経緯について報告する。